

社会的企業研究会 2020 年度事業報告（案）  
（事業年度 始：2020 年 6 月 1 日 至：2021 年 5 月 31 日）

文責：藤井敦史（2021 年 6 月 26 日）

2020 年度、社会的企業研究会は、四つの部会（①国際・理論部会、②人材育成部会、③協同労働部会、④資金調達・評価部会）による部会制をとるようになり、各部会を担う運営委員が積極的に企画を立ち上げ、これまでになく数多くの研究会（第 101～110 回の計 10 回）を開催することができました。研究会全体として、コロナ禍とそれに伴う雇用危機という時代状況の中で、社会的連帯経済がどのような社会的役割を果たしうるのか、また、それがいかにして成り立ちうるのかという問いが貫かれていました。

また、PARC の協力による事務局体制の強化、ならびに、若い研究者の事務局への登用などの取り組みも継続的に実施した結果、これまでの研究データの整理・活用への準備、ホームページの刷新・更新など長年の懸案事項が解消されつつあります。

## 1. 研究会活動

四つの部会ごとの活動概要、ならびに、第 101～110 回研究会の内容は以下の通りです。

### 【部会ごとの活動】

#### ○国際・理論部会

社会的連帯経済の国際的動向の研究（第 102 回）や、若手研究者・実践家が集まり議論する場づくり（第 105 回研究会等）を積極的に行いました。

#### ○人材育成部会

スペイン社会的経済における人材育成（第 101 回）やデンマークの教育機関「フォルケコイスコーレ」（第 110 回）などの研究会の他、外部組織と連携して大学生向け人材育成活動を行いました（下記 2.）。

#### ○協同労働部会

コロナ禍で人々の暮らしを支える協同労働の実践（第 103 回）の他、労働者協同組合法（第 108 回）やソーシャルファーム条例（第 110 回）など法制度に関する研究会も開催しました。

#### ○資金調達・評価部会

NPO の資金調達（第 106 回）や、草の根組織の（公民連携等における）評価（第 107 回）といったテーマで研究会を開催し、社会的連帯経済の持続的発展や正当な評価のあり方に関する研究を進めました。

### 【2020 年度に開催した研究会】

第 101 回 「スペイン社会的経済と人材育成について—サラゴサ経済研究所の取り組み—」

- ・第 1 部（事前勉強会）日時：2020 年 7 月 9 日（木曜日）19：00～21：00

「サラゴサ大学における社会的経済研究所の取り組み」工藤 律子さん（ジャーナリスト）

- ・第 2 部 日時：2020 年 7 月 30 日（木曜日）18：00～20：00（第 2 部）

「サラゴサ大学における取り組みと展望」カルメン・マルクエジョ教授（サラゴサ大学）

第 102 回 「ポストコロナ時代の韓国社会の行方と社会的経済の役割」イ・ウォンジェさん (Labo 2050・代表) 日時：2020 年 7 月 31 日 (金曜日) 18：00～21：00

第 103 回 「エッセンシャル・ワーク (キー・ワーク) としての協同労働—コロナ禍の労働者協同組合の実践からポストコロナ社会を考える」日時：2020 年 8 月 4 日 (火曜日) 18:00～20:30

・第 1 報告 「コロナ禍における高齢者・障がい者支援事業」浅井久美子さん (ACT たすけあいワーカーズ・コレクティブ連合代表)

・第 2 報告 「組合員の生活維持を自分事として～ライフラインを維持する仕事～」風間由加さん (WNJ 受託事業会議座長)

・第 3 報告 「コロナ禍のワーカーズコープの実践から、大失業時代へどう立ち向かうのか」相良孝雄さん (一般社団法人協同総合研究所事務局長/理事)

第 104 回 「NPO のおカネの問題を考える」日時：2020 年 10 月 5 日 (月曜日) 19:00～21:00

・「はじめに」小関隆志 (社会的企業研究会運営委員/明治大学経営学部)

・第 1 報告 大嶽貴恵さん (特定非営利活動法人エコメッセ理事長)

・第 2 報告 浅川悦子さん (特定非営利活動法人コンチェルティノー理事長)

・コメンテーター 坪井真里 (社会的企業研究会運営委員/東京 CPB 理事・事務局長)

第 105 回 若人の会 (若手研究者の報告等) 日時：2020 年 10 月 29 日 18:00～20:00

・第 1 報告者：「地域福祉から社会的企業へのアプローチ ～実践からの話題提供」竹内友章さん (東海大学健康学部)

第 2 報告者：「Small is Beautiful / Big is Responsible-人間中心の社会への考察」戸田満さん (社会変革推進財団 (SIIF)・Office TODA (個人事業主))

第 106 回 「今、市民社会はコロナ禍で苦しむ人々の SOS を受け止め、何をすべきか」日時：2020 年 12 月 7 日 18:00～20:00

・『死にたくなくても死んでしまう。』日本に生きるすべての人を対象に、平等な公的支援の速やかな実行を！」瀬戸大作さん (新型コロナ災害緊急アクション・事務局長等)

第 107 回 「草の根組織における、評価のあり方を考える」日時：2020 年 12 月 14 日(月)18:00～20:00

・第 1 報告 平野覚治さん (一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事・社会福祉法人ふきのとう代表)

・第 2 報告鈴木稜氏 (NPO 法人アスイク常務理事・チャイルドラインこおりやま副理事長・NPO 法人しんせい理事・一般社団法人若者協同実践全国フォーラム理事)

・コメント：原田晃樹 (社会的企業研究会運営委員、立教大学コミュニティ福祉学部教授)

小関隆志 (社会的企業研究会運営委員、明治大学経営学部教授)

第108回 「労働者協同組合法制定の意味—法を活かすポイントは何か」日時:2021年1月21日(木)18:00~20:00

- ・開催趣旨:相良孝雄(社会的企業研究会運営委員、協同総合研究所事務局長等)  
藤井恵里(社会的企業研究会運営委員、ワーカーズ・コレクティブ ネットワークジャパン代表)
- ・報告「労働者協同組合法の意味とポイント」田嶋康利さん(日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会専務理事)

第109回 「ソーシャルファームってなあに？」日時:2021年2月23日(火)14:00~16:30

#### 第I部

- ・「ソーシャルファーム条例の説明とこれまでの経緯」藤木千草(社会的企業研究会運営委員、東京都ソーシャルファームを考える会)
- ・認定に応募した団体からの報告
- 第1報告 重田益美さん(一般社団法人共働事業所よって屋)
- 第2報告 若畑省二さん(企業組合あうん)
- 第3報告 伊藤勲さん(一般社団法人ソーシャル・ファームミレットロード)
- ・「実践者からみた条例や応募要項の課題」斎藤縣三さん(共同連)

#### 第II部

- ・「韓国における社会的企業の状況~社会的企業育成法から13年」金享美さん(尚志大学社会的経済学科 副教授)

第110回 「フォルケホイスコーレを学ぶ」日時:2021年3月4日(木)18:00~20:00

- ・開催主旨:北川裕士(社会的企業研究会運営委員、ワーカーズコープ東京中央事業本部)
- ・講演「フォルケホイスコーレを学ぶ」錢本隆行さん(日本医療大学認知症研究所研究員)

## 2. 人材育成活動

人材育成部会に所属する運営委員らが主催・共催する大学生向けの非営利・協同組織の仕事説明会やインターンシップについて、昨年度同様、社会的企業研究会も協力しました。

### ○私らしいしごと発見会

(第7期「協同を学ぶ」インターンシップ・キックオフイベントと非営利・協同の仕事説明会の合体企画)

日時:2020年11月3日13:00~16:30 会場:zoomでのオンライン開催

主催:よいしごとステーション(ワーカーズコープ東京中央事業本部)

共催:一般社団法人くらしサポート・ウィズ

### ○つながりインターンシップ@協同2020 修了報告会(第7期「協同を学ぶ」インターンシップ)

日時:2020年12月25日13:00~17:00 会場:zoomでのオンライン開催

主催:一般社団法人くらしサポート・ウィズ

共催:よいしごとステーション

## ○大学生向け「社会的事業のしごと説明会」

日時：2021年5月29日13:00～15:30 会場：zoomでのオンライン開催

主催：よいしごとステーション

共催：一般社団法人くらしサポートウィズ

## 3. その他

●出版企画：社会的企業研究会は、100回記念研究会の後、これまでの15年にわたる研究会の蓄積をまとめ、国際的な社会的連帯経済の潮流から我々が学んできた論点、これからも考え続けなければいけないテーマを提示する書籍を発行するために尽力してきました。具体的には、社会的企業研究会で国際交流を行ってきたイタリア、英国、韓国等における社会的連帯経済から学べることは何なのか、また、日本の協同労働、生活困窮者支援、地域再生の文脈での社会的連帯経済の実態について論じたものとなります。2020年度中の発行に至ることはできませんでしたが、2021年度中の発行を目指して、現在、編集作業中です。

## 4. 総会・運営委員会

●2020年7月31日（金）に第9回総会（16:30～17:30）をオンライン上にて開催しました。

●コロナ禍により運営委員会の開催は全てオンラインとなりましたが、例年通り適宜開催し、今後の社会的企業研究会の方向性について議論を行いました。

## 5. 情報発信について

・リニューアルしたホームページを通じて、研究会情報の発信を一層進めました。これまで、研究会ごとに参加者からの報告と感想をいただき、掲載するという活動を続けてきました。2020年度も、研究会の記録については着実に残すことを心がけてきましたが、記録の情報発信にまでは至ることができず、今後の課題となりました。

## 6. 関係組織との交流について

・これまでに協調・協働してきた様々な国際的な研究・運動ネットワーク（社会的経済国際フォーラム、EMES、RIPESS、GSEF等）との交流を継続してきましたが、とりわけ社会的連帯経済を推進する大陸間ネットワーク（RIPESS）を通じた海外の連帯経済の事例や研究者との交流を深めていきました。具体的にはカナダコミュニティ経済開発ネットワーク（CEDNET）理事であり国際的な連帯経済運動を率いてきたイヴォン・ポワリエ氏やフランスでの連帯経済の草の根の運動と理論研究を橋渡しに尽力してきたRIPESS-EUのジョゼット・コンベ氏、アジア連帯経済ネットワーク代表のデニソン・ジャヤスーリア氏らへのヒアリングを通じた交流を行ないました。

## 7. 事務局について

部会制によって広がる活動を支えるため、新たにPARC事務管理体制の一部を委託することで、若手スタッフ・研究者の育成と事務効率の向上を実現しました。

以上